



FPの家は北海道生まれ。 住まいの結露を解消するべき開発されました。

北海道の家づくりでは、
高断熱・高気密の
家づくりは必須。

居住空間を空気で包む発想。
お手本は北欧の住まいでした。

隙間なく注入した
発泡ウレタンでつくる、
断熱パネルの誕生。

1970年に札幌市でとある建設会社が誕生しました。そこでは創業以来、北海道という寒冷地において高断熱・高気密の家づくりに取り組んでいました。石油ショック後の住宅業界では、省エネ効果を持つ新しい断熱材としてグラスウールが注目されていましたが、反面、数々の問題も明らかに。それは、綿状の柔らかい素材であるグラスウールは、壁体内でつぶれたり隙間ができると、断熱性能が大きく損なわれること。また冬に使用する石油ストーブやファンヒーターによって発生した水蒸気を含んだ空気を壁体内のグラスウールが吸収すると、断熱性能の低下だけでなく、内部結露によって、カビやダニを発生させる原因にもつながることなどでした。

断熱材は外気との関係ばかりでなく、内部の水蒸気への対策が十分でなくてはならないことを北海道の家づくりで学んだのち、北極圏に近い北欧の住宅の視察で、高断熱・高気密の住まいに出会ったのです。ここでは窓の結露を防ぐ二重窓、また壁材の湿気を防ぐため、壁体内のグラスウールの外側に空気を入れる方法が用いられ、それはまさに高断熱・高気密の居住空間を、空気層で包む発想でした。けれどもグラスウールには前述したデメリットがあるため、他の断熱材を開発しなければなりません。外気と内気を遮断し、さらに空気を大量に保存して家を包む機能がある素材とは?そこから辿り着いたのが発泡ウレタンだったのです。

昔から最近まで冷蔵庫にはウレタンが使用されていたことから、ウレタンは高い断熱性能を持つことで知られています。そこでウレタンを発泡させたものを、パネルに隙間なく注入し断熱パネルをつくったらどうだろうか?パネル自体が気密層となり、ウレタンの断熱性能とあいまって壁体内の結露とは無縁になるはず!このような発想からFP工法が生まれました。1985年、ウレタン注入発泡方式によるパネル生産がスタートして、今年で30年。「FPの家」は今や全国で6万棟以上の建築実績を誇っています。それは全国10地区からなるFPの家グループに所属する地元工務店や建築会社が、FPパネルを使用した家づくりに取り組んでいるからなのです。



代表取締役 谷川 卓矢

こんにちは。谷川工房です。今回ご紹介するお家は、

- ・ 設定温度 20℃であたたかい家?
- ・ 朝起きて窓の結露のない家?
- ・ 吹抜でもほんとうに寒くないの?

とFPの家にギモンを持っている方にピッタリです。ぜひ、見学会にお越し下さい。



谷川
工房

新築・リフォーム

有限会社 谷川工房



0120-059-340